

# 歴史を訪ねて...

笠岡市の文化財

真鍋島で「マルドウサマ」と呼ばれるこの石塔は、岡山県下でも最古の部類に入る、優れた石造宝塔です。現地は島の西のほうにあり、山道を通って行く必要があります。形の特徴から、平安時代末期鎌倉時代初期につくられたと考えられています。高さは約一七〇センチで、保存状態も比較的良好です。素朴なつくりで、どっしりとした印象を受けますが、「マルドウサマ」の名の示すとおり曲線的で優雅な形をしています。塔身の内側をくり抜いて空洞にし、正面に「へそ」のような孔をうがっています。

この石塔には銘文はありませんが、島では、源平合戦の戦死者をとむらった供養塔といわれています。もとは岬の頂上にあつたものを、開墾のため現在地に移動したともいいます。

最近の研究で、この石塔は、香川県西部でとれる特徴的な凝灰岩で作られていることが分かりました。このような石材が産地から遠く離れた真鍋島まで運ばれてきたことから、真鍋島が当時、海上交通の重要な拠点であったことが推察されます。

中世のころ真鍋島の領主であつた真鍋氏との関係は定かではありませんが、現在、石塔の近くに、全国の「まなべさん」により結成された「全国まなべ会」が石碑を建てています。



そうづまる ほうとう  
沢津丸の宝塔  
県指定重要文化財  
(石造美術)

## 竹喬美術館みどころ2

### 竹喬の挿絵と表紙絵



ささめゆき  
小野竹喬<細雪(1)>

昭和30(1955)年

谷崎潤一郎著

『細雪』中巻表紙絵

竹喬美術館には、竹喬が描いた挿絵や表紙絵の原画も数多く収蔵されています。それらは、印刷物となって多くの人々の目を楽しませたのですが、現在でも手元に残しているという方は稀ではないでしょうか。

竹喬が作品として描くのはおもに風景ですが、挿絵や表紙絵などには、将棋の駒や夏みかん、文鳥やふるさとの干物でべらなど、身近な対象もたびたび取り上げています。

今回の展覧会では、富山県の五箇山の紀行や、大正10、11年にヨーロッパで描かれ新聞に掲載された風景画、新聞連載小説『天皇の世紀』のための挿絵原画などを展示します。

時代ごとにさまざまな媒体を彩ってきた竹喬のもうひとつの仕事のあとを、関連する資料やスケッチとあわせてお楽しみください。

### 展覧会と行事のご案内

#### 竹喬の挿絵と表紙絵

6月7日(土)~7月21日(月)  
休館日 毎週月曜日  
(ただし7月21日は開館)  
開館時間 9:30~17:00  
(入館は16:30まで)

#### ギャラリートーク

展示作品を解説します

6月7日(土)・29日(日)、  
7月12日(土)  
いずれも13:30~14:30

〒714-0087  
笠岡市六番町1-17  
☎63-3967  
ホームページ  
<http://www.city.kasaoka.okayama.jp/0013/0001.html>

## 今月の表紙

市重要無形民俗文化財である真鍋島伝統の「走り御輿」が5月4日に行われました。

八幡神社でおはらいを受け、た3基の御輿は、鮮やかな大漁旗で飾られた漁船で本浦港へ。若者らが8人一組で重さ約百キロの御輿を担ぎ上げ、人だかりのできた路地や浜の大通りを「おりやー」という威勢のいい掛け声とともに全速力で駆け抜けました。

当日はたくさんのお客様が訪れ、その勇ましい姿に、感嘆の声をあげていました。

## 係から

先日、息子と自転車の練習をしました。

最初はすぐに倒れていた自転車も頼りない足取りながら徐々に前に進みだし、コツを掴んだあとは教えるまでもありません。

息子の楽しそうに走る姿を自分のことのように嬉しく思いつつ、まだまだ未熟なカメラのコツを早く掴みたいと思つた一日でした。(上)

発行日/平成20年6月1日  
発行/笠岡市役所  
編集/企画政策課  
〒714-8601 笠岡市中央町1-1  
☎69-2110

印刷/株国輝堂 ☎67-5111



※この広報は再生紙を使用し地球環境にやさしい植物性大豆インキで印刷しています。